

■ご挨拶

リスクマネジメントの重要性

日本風力発電協会 理事 **坂東 松夫**
イオスエンジニアリング&サービス(株) 代表取締役



はじめに

平成26年5月の日本風力発電協会総会において、理事を務めさせていただく事になり初めての役務であり諸先輩に習い当協会の発展に少しでもお役にたてるように努めますのでよろしくお願いたします。

風力発電設備の導入拡大

2003年秋に初めて風力業界にお世話になった際、元々回転機械に携わったことが10年余りあり風車の制御は水車の调速機と同じの感覚で居ましたが風速の急変動に追従した制御の複雑さに戸惑ってからもう10年余りになります。

当時は国内の風力発電は700MW位で、単機出力0.6~1.5MW風車が大勢でしたが、その後単機が2~2.4MWになり現状では当時MWの4倍に増加し更に洋上風力も加わってきた。

風力発電導入促進政策もインシヤルコスト軽減策の補助金制度からFIT制度へ移行し、既設風力発電設備も対象となり風力事業に活力が吹き込まれた感がある。

思うに、政権交代により補助金制度廃止で風力発電業界が一時停滞し闇の時間を迎えたが、FIT制度導入に向けて日本風力発電協会と風力発電推進市町村全国協議会の皆さんが総力戦で活動された結果で制度化され、感謝しています。

更なる導入拡大方策の制度化の一環として、風力発電事業はインシヤルコストが嵩み、事業収支が天候によって大きく左右されることへの補助や税制面の優遇措置への検討があると思われる。

事業者側として、地権者や自治体から歓迎される信頼性の高い風力発電設備を形成しなければならないこと、事業年間のリスクを考えた確実な事業性が整う開発が必要と考えられる。

風経年風車の延命とリニューアル

昨年来風力発電業界の存続を揺るがす重大事故が続発して同じ業界に居るものとして我が身に照らし身が震える思いをした。

風車メーカー、事業会社及びO&M会社、其々

に原因と対策があり、当協会においても種々原因と対策を解析して再発防止の思いを一つにして所管省庁へ対応され、立地、建設、運転保守に至るまで幾分規制が付加されつつあるものの深刻な指導事項もなく安堵したところであります。

立地点選定、建設・風車選定、運転保守の各分野でのリスクマネジメントを確実にやり如何なる分野においてもファジーな部分を造り込んではいないし、如何なる局面においても制御不能になる事態を避けるべきであり、O&Mを生業とする者にとっても確実なフェールセーフ機能具備が絶対条件だと思っている。

多くの既設風車は設計寿命の折り返し点に至りつつあり、非破壊検査など各種診断と予防保全的な対策を施し重大事故要因の排除と円滑な運営ができるようにしたいものであります。

電源開発においてその昔、水力発電の開発地点枯渇化の一因もあり火力、原子力へシフトされてメーカーには水力技術者が居なくなってリニューアルが困難な事態が生じたこともあった。

風力発電の場合設計寿命が20年位であり、技術開発のテンポも速く、欧州でも数年前から開始されているように0.6MW以下の風車を2MW以上の大型化で本数を削減して地域に優しい立て替え実績もあり、技術は途絶えることなく進化し、導入拡大に向けて問題点は潜在していないと思える。

おわりに

再生可能エネルギーの内、最も有効な発電源である風力発電事業を更に拡大し、安定に運営できるように当協会が率先して推進することになり、当協会の一員として活動したく思います。

以上